



今度は、駿府城へ。中堀で葵舟に乗ってみた。

どうする家康、どうする？車いす

葵舟
駿府城公園 中堀

ひまわり通信

Vol.13 2023.6.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団
静岡障害者自立生活センター

〒422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58
TEL：054-288-6068 FAX：054-287-4922
E-mail：himawari@scil.jp HP：https://www.scil.jp



「どうする家康、どうする？車いす」 第二回 駿府公園編

家康公の夢は
駿府城が海から繋がることだった
そして、駿府城を中心に城下町に
水路が張り巡らされたのだ



前回3月号の記事を覚えているだろうか。駿府城公園の東御門・翼^{たつみやぐら}櫓で、竹千代手習いの間へ行くのは、車いすではちょっとムリとの返答に肩を落とす小久江理事長。

「次はよろしく！」とバトンを渡されたのだが、その前に、以前より企画案が上がっていた「葵舟」にスポットを当てることに。そして今回は、その「葵舟」に車いすのままでも乗れるのか、を検証してきた。

ちなみに、駿府城は江戸幕府を開いた徳川家康公が大御所政治の拠点にした場所。現在は公園として多くの人に親しまれている駿府城跡だが、この公園を取り囲む中堀で、2021年春より、400年の時を超え家康公の夢を乗せた「葵舟」の運行が始まったのだ。

取材したのはGW真っ只中の5/4。ここ数年、コロナの影響で外出制限があったが、今年はそれらが解除され、さまざまなイベントとも重なり、現地は多くの人で賑わっていた。休日は混雑してなかなか希望時間通りに乗船できないことがあるとの噂を聞き、先にチケットを購入しようと売り場へ向かった。始発9:30の乗船を目指していたが、すでに売り場には数人が列を作っていた。

～ チケット売り場 ～

レジまでは建物横にある手すりなしの階段を上らなければならないが、ここで躊躇している暇はない。すかさず「階段が上がれないので、下で対応してもらえますか？」と声を張り上げる。すると、中からちょっと若めのお兄さん(?)が登場。後に運航会社の「TOKAI ケーブルネットワーク」責任者の方だと判明したのだが、気さくな印象に安堵した私は、話が弾んだ勢いそのまま機関誌の取材交渉を開始。さっそく一番気になっていたことを質問してみた。



私「あの一、ちなみに車椅子のまま乗船はできますか？」

兄「車いすは折り畳んで乗せることは可能ですが、そのままは難しいです…」

私「ですよねー」

兄「車いすを乗せるようならお手伝いしますので言ってくださいね」

お兄さんの方からひとこと。良心的だ～。良き良き♪
実は以前、同僚からHPに葵舟は車いすのままでも乗船可能と記載されている、と聞いたことがあったが、葵舟について事前調べをしていた私は、それが物理的に困難だと実はわかっていた。なぜなら、乗船はかろうじて車椅子のままできたとしても、遊覧終盤に北門橋を通過する際、葵舟の屋根を下げた状態で橋の下ギリギリを通過するため、体を低くしなければならないからだ。(その様子は次回に)。

HPの乗場変更のお知らせページを見ると「車いすの方にも安心してご乗船いただける乗場設計」となっている…との一文が。おそらく同僚はこれを「車いすのまま乗船できる」と勘違いしたのではないだろうか。残念ながらそうは一言も書かれていない。

ひと昔前の静岡自立のノリで「車いすの方でも安心して乗れる、と書かれているのに話が違うじゃないか！」と、抗議しなくて本当に良かったと思った(笑)。

さて、9:30の乗船は逃したものの、10:00に乗船できることに。それまでちょっと時間があるので周辺をぶらり♪

～ 駿府城跡天守台発掘調査現場 ～

なんと言ってもここには日本最大級の天守台がある。慶長期天守台は、東西約63m、南北約69m。とにかく広い！無料で見学することができるので、興味がある方はぜひ！
(右側写真：左)



～ 大御所時代の家康公像 ～

迫力が半端ない！(左ページメイン写真)
家康さん、ご存知ですか？今、若者からあなたが支持されていることを。「時機を待つ忍耐力」、「家臣を許す寛容さ」、「敵将にも学ぶ姿勢」などが理由なのとか。それにしても、若者がこれら3つを理由に挙げるのが素晴らしい！うーん、これは私も見習いたいので、あやかりよう！！



～いよいよ、乗船だ！～

さて、集合時間になったので乗場に向かう。乗船前に船頭からの乗船にあたっての説明があり、救命胴衣を着用していざ乗船！

一番不安だったのがこの乗船時。乗降の際、けっこう揺れると聞いていたので、ドキドキしていたが、まあ、落ちたら落ちたでネタとしてはおいしいな、と腹をくくっていた。とは言え、そんな危機感がなさすぎる私に、ヘルパーはヤキモキしていたに違いない。仮に私が落ちたらヘルパーとしての名がすたる。それは絶対に避けなければ！

葵舟向かって右側に手すりがあったので、ちょっと安心。でも、やっぱりけっこう揺れたので怖かった。船頭の方や他の乗客たちが見守る中、なんと

～ 乗船場付近の多目的トイレ ～

乗船場から一番近い多目的トイレはここだが…ドアがこんな感じの開き戸だ。これは、特に障害がある人がひとりで利用するのは難しいかも。でも、遊覧時間は約40分。トイレは済ませておいた方が安心だ。(上写真：右)

か落ちずに乗船することができた。嬉しかったのが船頭の方々も手を差し伸べてくれたこと。2cm程の段差を数段階降りた先で靴を脱ぎ、畳スペースに座る。

基本は直に座るのだが、大変な方のために低めのタイプにはなるが椅子も貸してくれる。さらに、竹笠の貸し出しや記念写真撮影のサービスまで。おー、竹笠は様になるねえ。なかなかの粋な計らいだ。

さあ、いよいよ出航！葵舟が静かに動き出した。



そして次回へ続く…

文：鈴木香奈



「どうする家康、どうする？車いす」～それいゆ・さにい編～ 江戸時代の駿府に思いを馳せて。



歴史って、好きな人はすごくはまるけど、苦手な人も少なくないはず。
でもどんなに苦手でも、徳川の名前は一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。
そんな「超」有名な徳川家康が暮らした駿府の町の様子を覗きに、今年5月に開館した静岡市歴史博物館へ
「就労継続支援B型それいゆ」と「生活介護さにい」のメンバーで行ってきました。

文：鈴木梨可



1階エントランスには、戦国時代末期の道と石垣の遺構がそのまま露出された状態で展示されている。当時の人たちの生活の中にこの道があり、人々が行き交っていたのでしょう。

階段で降りて、直ぐそばで見ることができるけれど、スロープはないので車いすでは上から覗くのみ。残念・・・。

2・3階の展示は撮影NGだったので写真でお伝え出来ませんが、アニメーションでの説明があったり、復元された甲冑の展示などがあり、飽きることなく見ることができます。

江戸から京都までの宿場の様子が描いてある屏風は、知っている地名を探しながらみんなでワイワイ辿っていくと、とてもおもしろいですよ。

3階からの駿府城の眺めも🌸（花マル）。

かなりのボリュームなので、1時間半ではとても時間が足りません。

お出かけの際は、時間に余裕をもつてのんびりと出向くことをおすすめします。

家康は、駿府城から駿河湾や富士山を臨み、どんな思いを抱いていたのか。

そして私たちが生きる、今の静岡は彼が想像した未来と比べてみたら???

2023年の静岡を見たら、家康は何を思うのでしょうかね。



葛飾北斎や歌川国貞が描く江戸時代の風景や人物。広重が描く東海道。今までは美術館の額の中のものだった景色や人物が、ふっと身近に感じられる。



それいゆのみんな！ 休日、 何してる？



染谷さん

4月22日（土）静岡県牧之原市にあるSURF STADIUM SHIZUNAMIで行われた、パラサーフィンフェスタに行ってきました。

今回参加したのは、就労継続支援B型それいゆに通所している、染谷さん（写真左）と竹下さん（写真右）の2名です。前日からサーフボードを片手に、2人の気持ちは盛り上がっていました。

選手、役員、観客、イベントスタッフ・バンド演奏の人。

いろんな立場の人がいるけどみんな笑顔で楽しんでいる。とにかくみんなの表情が明るい。

おもしろい事、夢中になれる好きな事を単純に楽しんでいるようだね。

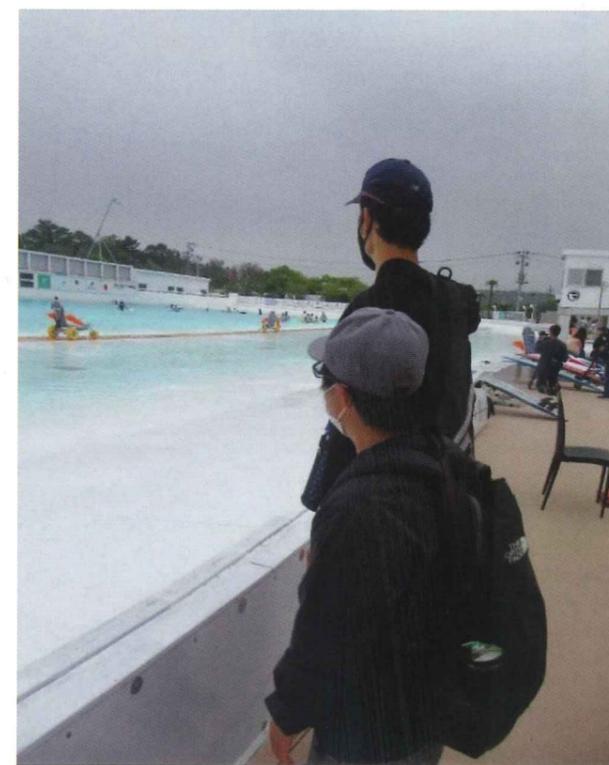
さて サーフィン！

波の乗り方は本当に自由で、いろんなスタイルで乗っている。

自分に合ったのり方をしている。ボードに立たなくても、すわっても、ボードから落ちても、二人での



この施設は、2020 東京五輪では、日本代表チームや金メダルを獲得した選手をはじめとする USA 代表チームの練習場としても使用されました。



4月のまだ冷たい海水。素足で感じる砂浜。耳元を吹き抜ける潮風。波の音。目に飛び込むまぶしい青。潮のにおい。なめるとしょっぱい海水。

っても、まっすぐ行っても、右に行き過ぎても自分のスタイル。

そうであれば、自分もできそうな気がする。少しくらい顔に水がかかってもできそうな気がする。

ギャラリーを見るとよく日に焼けたたくましく眩しい雰囲気の人達。話しかけるととてもフレンドリー 日焼けした顔にくったくの無い笑顔、すぐに仲良くなれちゃう。それは日常のことらしい。

日々、波の状態や風の向き・潮の満ち引きを気にかけて、休日・時間のある時に仲の良い仲間

と海に出かける。あまり細かい事は気にせず自然とともに生きている。つまらないと思うことは笑い飛ばしてしまう。ここに来ている人はそういう人たち。そういう生き方をしているようだね。

さて、みなさんの休日、どんな過ごし方をしているのかな。友達に会いに車いすでどこにでも行く！さん。趣味の水泳や絵画に忙しいMさん。

それぞれいろんな休日の過ごし方がありますが、ちょっと違う世界を覗いてみたいと思うことはありますか？

まず一緒に覗いてみて、楽しそうだったら・・・どうしたら続けられるかを一緒に考えてみたいと思っています。

文：石神政行



竹下さん



職員の異動もあり、
バタバタと始まった2023年度です。
今年度も、さにいのメンバーの
やりたいことを聞きながら、
楽しく活動していきます。

生活介護さにいの新年度、スタートです。

今まで活動が別だった、就労継続支援B型それい
ゆとも少しずつ交流を深めています。

一緒にポッチャやお出かけを楽しんでみる日。
それいゆの畑で玉ねぎやジャガイモの収穫を体験し
てみる日。
など、今までになかった活動にも挑戦中です。

土の中から玉ねぎを抜いた時の歓声！
ミミズを不思議そうに見つめる眼差し・・・。
青空のもと、緑に囲まれて過ごす時間はあつとい
う間です。

お出かけでは、今話題の人宿町へ。七間町や人宿
町のおしゃれスポットに大はしゃぎ。

5月には、あの知る人ぞ知る『村マンカレー』づ
くりを決行。
前日に流通センターの小倉屋さんへ。
かつて駐車場にサンフラワーがあった時の仕入れ

先です。さっそく、50人分の材料を購入します。

さにいのメンバーは、普段あまり見かけない商品
にテンション↑↑

翌日、村マン（写真右下）監督のもと1日かけて
カレーを作り、更に半日煮込んだ後、利用者職員み
んなでいただきました。

村マン曰く、まだまだ煮込みが足りないとのこと。
反省を生かして次は7月の予定です。

お楽しみに！！ 文：鈴木梨可



村マン

小雨の降る中、グループホームなな～らから歩いて
20分のみまわり事業団まで行きました。

事業団では1時間前からプロカメラマンである入
居者の高野さん（写真：左上）のお兄さんとアシス
タントさんが準備をしてくれました。

今日はどんな写真撮影会だろうと、みんなドキド
キしていましたが、到着して直ぐに目の前に準備さ
れたお弁当を見つけると、さすが皆さん！色気より

食い気が強めで、表情からは緊張がほぐれていくよう
でした。撮影中は自分から発信することが苦手な方から
も、普段見られない表情がみられました。またやってみ
た～いと次回を楽しみにしているみなさんでした。

文：清水かおり

Photographer: KAZUKI TKANOさんプロフィール
長野県生まれ。広告写真分野でのスポーツフォトやポートレートで活躍中。主な仕
事: コカ・コーラ ボトラーズジャパン「チーム コカ・コーラ東京2020キャンペーン」/
みずほフィナンシャルグループ「羽田空港国際線ターミナル 東京2020 オリンピ
ク・パラリンピック応援ボード」



グループホームなな～ら記念撮影会

なな～らの住人である高野君のお兄さんがプロの
カメラマンをしているとのことで、今回は事業団の
会議室を借りて撮影会を開き、写真を撮っていただ
きました。

なな～らを出発し事業団へ向かっている時は、ワ
クワク・ノリノリといった感じでしたが、撮影場所
に着くと本格的な雰囲気のため緊張した表情にな
り、いざ撮影が始まると順番の譲り合いが始まり、
お兄さんのご指名で高野君から撮影は開始となりま
した。全身緊張のカタマリといった感じでしたが無

事撮影終了。2番手にはモデルのレッスンに通ってい
るTさん。ポーズは決まっているが笑顔が不自然？や
はり緊張している様子が隠せません。

ドレスに着替えて登場のKさんはノリノリでとて
も良い表情です。皆さん、緊張が解れてきたようで思
い思いのポーズで順調に撮影は進み楽しんでいる様
子でした。皆で集合写真を撮る頃には緊張もなく笑顔
満載でした。撮影していただいた写真は、お気に入り
を現像して自分の部屋に飾り大切にしています。

皆さんにとって良い体験&記念になったようです。

文：見城剛弘

障害当事者とタクシー事業者との研修会

この研修会の目的：障害当事者とタクシー事業者が、共に意見を交換し合い、UDタクシー（ジャパンタクシー）を普及する機会にする。また、車両に乗車する体験を通して、障害当事者の視点から利便性等を検証する機会とする。



乗車体験と意見交換会の様子

この企画は、かねてから当センターの当事者の間で話題に上がっていた「UDタクシー（JPNタクシー）って乗り心地はどんなの？」「タクシー事業者への接遇研修を当事者がやりたいよね」という思いと、タクシー事業者側の「もっと障害のある人に利用してもらいたい」「障害のある人向けの接遇研修もやってるけど、ほんとのところは障害のある人はどう思っているのか？」「UDタクシーの利用の幅をもっと広げたい」という思いが合わさり実現した企画。

静岡県車いす友の会の青野全宏氏（静岡県タクシー協会にて接遇マナー研修を行っている）を通じて、千代田タクシー株式会社（静岡市）の加藤高立社長（静岡市タクシー協会会長）に打診してもらい、上述のような思いが合致し意気投合。一気に

企画が進むことになりました。当初はコロナ禍の中、実施日がなかなか決まらない状況でしたが、終息が見えてきたこともあり、2月25日（土）に決定。あとは天気。晴れてくれればきっと良い体験会になる。そんな思いで迎えた当日、朝から天気も良くあたたかな一日で、絶好の乗車体験日和となりました。

当日はタクシー事業者も千代田タクシーを含めた3社（静鉄タクシー、ひかりタクシー）が参加し、当団体の「生活介護さにい」、「就労継続支援B型それいゆ」の利用者も数多く参加。県内のCIL（浜松・CILこねくと）からの参加や、個人（障害当事者）の参加もあり、大いに盛り上がった。やはり、普段はなかなかタクシーを利用する機会が少なく、ましてやUDタクシーの利用とな

れば参加者のほとんどが未体験だったので、改めて見るUDタクシーの構造やスロープ設置の場面など、皆興味津々に見つめていた。また、乗車体験ではさすがタクシードライバー、運転が上手い（笑）ので、快適に乗車体験することができた。

しかし、これはあくまでもイベントであり、乗車時の状況や環境、時間的制約などの制限がなく、実際に街なかで利用する時とは違うということも事実。今回はとにかく最初の一步。障害当事者とタクシー事業者の間にある垣根を少しでも低くしていくことが目的。今後もこの交流や体験会を継続して、障害理解や接遇マナーの向上をすすめ、障害者の移動・外出の選択肢が増えることにつながるようにしたいと思う。

文：大川速巳

主催：静岡障害者自立生活センター（ひまわり事業団） **共催：**市内タクシー事業者（タクシー事業者：千代田タクシー、静鉄タクシー、ひかりタクシー） **障害者団体：**静岡県車いす友の会、就労B型それいゆ・生活介護さにい **行政：**中部運輸局静岡運輸支局、静岡市交通政策課、静岡市障害者支援推進課 **企業・団体：**静岡トヨタ、静岡県中部個人タクシー協同組合 **その他参加者：**CIL こねくと、静岡市視覚障害者協会、静岡市手をつなぐ育成会、南急観光、障害当事者（個人） **メディア：**東京交通新聞、静岡新聞

ぼくらの逸品

今回は当法人の理事でもあり、「清水サポートセンターそら」の理事長でもいらっしゃる山本さんにお話をうかがいました。

山本さんのご趣味でもある『キャンプ』。たくさんのキャンプ用品の中から、お気に入りの“逸品”をご紹介します。

キャンプ用品の多さ、こだわりももちろんですが、『キャンプ=自然』を通じて、愛娘と過ごした日々を語る優しい父親の一面も、垣間見る事ができました。



静岡市清水区在住
やまもと ただひろ
山本 忠弘さん (58歳)

頚髄損傷

NPO 法人清水サポートセンターそら 理事長
1965年清水市(現:清水区)生まれ。静岡ターミナルホテル(現:ホテルアソシア静岡)在職中の22歳時、交通事故にて頚髄損傷、車イスでの生活になる。1992年に花園会に就職し、ケアマネージャーとして活躍。2005年にそらの理事になり、2006年より現職。

山本さんとキャンプとの出会いは今から50年以上前。両親に連れられてきょうだい・従妹と出掛けたのがきっかけだった。ただ、当時は今のようない便利なキャンプ道具はなく、大きいクーラーBOXに四角い一貫め(3.75kg)の大きな氷を入れて食材を入れ、一人ひとりの飯盒はんごうを持って出発。キャンプ場では三角テントに布団を敷いて休むというような「元祖キャンプ」だった。お父さんに本栖湖の沖までゴムボートに乗せられ、「岸まで泳げ」とボートから湖に“放り出された!”ことも思い出にあるという。

20代で受傷。車イスでの生活になったのち、しばらく離れていたキャンプを再び始めたのは愛娘・詩音さんが小学校にあがったくらい。ちょう

ど山本さんがキャンプに出会った頃の年齢だ。そして、およそ25年ぶりに再びキャンプの世界へ。

その頃にはキャンプ道具もすっかりオシャレで便利になり、海外からの輸入ものがかなり入ってくるようになっていた。コールマン、スノーピーク、ロゴス…本格的にキャンプを再開すると、どんどんキャンプ用品は増えていった。

テントも3つを使い分ける。1泊2日用、2泊以上用…使うテントによってタープも変わる。特にお気に入りのスノーピークの色遣いが素敵なテントは10万円以上(写真右上)!ランタンもLED製やガス製であったり、種類もテーブル用からスタンドにかけるものまで数種類。

中でもお気に入りの逸品は『デュアルグリル』



(SOTO製)(写真上)。高さの調節も火加減の調整もできる。何より良いのは、テーブルの上で調理できること。キャンプ用のキッチンが車いすでは高さが合わない。その点、テーブルの上で調理できるグリルはとても便利とのこと。また、炭を使うので味も格別。写真からはおいしそうな匂いが漂ってきそう!

もう一つの逸品はオフロード用の車いす(写真右)。キャンプ場は下が土のため、それに対応して前車輪が土にめり込まないようにしている。

詩音さんも大きくなり、コロナもあり、しばらくキャンプからは遠ざかっているそう。いつの日か親子三代でキャンプする日がくるかもしれない。 文:小柳恵





特定非営利活動法人
静岡市障害者協会 会長

まきの よしひろ
牧野 善裕 さん

静岡県静岡市出身
1956年10月生まれ 66歳
NPO法人ひまわり事業団 理事

理念を掲げている、ひまわり事業団と私

ひまわり事業団から原稿依頼をいただき、ゴールデンウィークに書いています。期せずして、久しぶりに高校の同窓会もあり、ここ50年の自分を振り返っています。

■福祉の業界に関わり始める

さて、1994年10月、私は15年務めた某銀行を退職し（38歳）、無職になりましたが、元々農家なので退職後の生計は不動産賃貸業でなんとかしていました。銀行の先輩の勧めで静岡県ボランティア協会に関わり始めました。同時に、四葉会（障害のある子を持つ父親の会）の活動としてそよ風コンサートや父親セミナー、ソフトボール大会などもやっていました。

障害のある子どもがいた関係で福祉的な活動をしようと、日本福祉大学系の通信で学び、社会福祉士を1997年に取得し、相談員を目指しました。たまたま四葉会の友人（杉山道夫氏）の勧めで、故渡辺正直さんの選挙に協力するようになり、結果、1999年静岡市で初めて障害のある議員の誕生に関わりました。そのころから当時の「障害者雇用事業団」や「静岡自立生活センター」との関係が本格的に始まりました。渡辺さんの活動や業績は、別の機会に譲り、周辺の動きのお話をします。

■障害者プランの勉強会について

旧静岡市の障害福祉行政は当時の障害者プランを策定しようとしていましたが、特に保守的だ

ったため、障害者団体とは対立的な関係でした。障害者団体の意見が入るよう委員構成を要求し、全15人中3人だった当事者団体（家族を含む）は25人中5人となりましたが、知的と精神の当事者はいませんでした。紆余曲折の末、障害者団体の要望を調査研究する事業としたことで決着しましたが、その検討をフォロー・チェックしようとして、1998年に「障害者プランの勉強会」を設立しました。代表は、故萩原善次郎さんと渡辺さんと私が事務局、毎月、定例会を持ちました。その頃の大きな事業は、町田市から近藤秀夫さんを招いて「障害者プランって何？」という公開セミナーをやったり（1998年）、「あなたにも歩けなくなる日がやってくる！？」と題して福祉文化を考える会と共催で公開シンポジウム（記念講演講師はあの「一番ヶ瀬康子氏」）をやったり（1999年）で、活動はとても活発でした。

ほかに記憶に残る活動として、城東の国立病院跡地の利用構想の発表を機に、横浜ラポールを見学に行ってスポーツと文化の施設を作る構想案を練り行政に提案しました（2001年）。城東福祉エリアは2005年に完成しましたが、多少は貢献したと思います。

■ひまわり事業団との関わりまで

静岡市が相談機関を事業所に委託する方針を出したので、事業団はNPO法人静岡ピアサポートセンターを作って受託し、牧野はその相談員の仕事をするようになりました。続く介護保険の制度化に合わせ、2002年に介助派遣サービスひだまりを設立し、障害者が主体となって障害者の自立をサポートする介助派遣事業に参入しました。支援費制度から障害福祉サービスに移る制度化に対応したものです（それまでのボランティアが支えた介助が制度化されたことに一部には異論がありました）。2003年これまでの活動を統合しNPO法人ひまわり事業団を設立しました。その後、NPO法人のピアサポートを合併しました。この頃から、私が事業団と本格的に関わっています。

■政令市になってから静岡市障害者協会について

旧清水市と旧静岡市の合併後、2005年に政令市になりました。その年、静岡市障害者協会を創設し、事務局長は私でした。同協会が障害者プランの勉強会を引継ぎ、2011年にはNPO法人化しました。今は認定NPO法人として、基幹相談支援センターとなり、静岡市の障害福祉にはだいぶ関わっていますが、当事者団体としても三障害プラスアルファの団体をゆるくまとめ、災害対策や差別解消などに関わっています。私は、ピアサポートの相談員から事業団の理事としての関わりが多くなり、現在に至ります。

■3つの意見「理念」「謙虚」「挑戦」

任意団体の当初から関わっている理事としてのご意見を、とのご注文に応えます。

●1つは、理念は高く掲げつづけること。

保守的な静岡で障害のある人の立場を代弁し、掲げた高い理念を掲げていることに敬意を表し、継続することと、実践することを期待します。

過去に「理念などいらない」と言った人と議論しました。彼は納得しませんでした。利益

追求の私企業でも「顧客第一主義」は謳います。利益を追求するためにはお客様に選ばなければならない。商品、サービスを買ってもらわなければ利益は出ません。「どんなに重い障がいがあっても地域で暮らす」ことが理念だとすれば、それはお題目ではなく、お客さんに事業団の商品、サービスを具体的に伝えています。自分たちが何を高く掲げているか。役員、職員、ヘルパーそれぞれが場面で考え実践することが重要です。

●2つ目は、サービス提供の事業所の謙虚さ

静岡市の障害福祉サービスの業界で入所施設を除けば3本の指に入る規模になっています。10年前から分離独立があったり、利用者の高齢化による不測の事態などがあって、経営は難問に直面しています。しかし、順風満帆の頃の甘い意識を抜けきっていないようにも思います。例えば「私たち、いいことをしているのだから、この位許される」という甘えや、過去の人々が築いてきた土台の上で眠っているという姿勢では、新しい課題を解決できないのです。「いいものを作っていれば売れる」時代ではないのです。この介助でよかったか、ほかの助言はなかったかという謙虚な姿勢がなければ、前進はありません。「パターンリスティック」でないか常に確認してほしいものです。

●3つ目は、理不尽な現実を認識し、あきらめずに取り組む

障害者の自立という意味では、昔は「親は敵」でした。そういう意味で対立するハズの私は渡辺さんとはなぜか馬が合いました。理念が合ったからかもしれないし、理不尽な現実への向き合い方に共感したかもしれません。今は「社会をどう味方につけるか」の方が課題になったと思っています。例えば障害者の差別も法律ができましたし、障害者の権利条約も味方で、フォローの風は吹いていますが、まだ静岡の市民には浸透していない。社会の側に障壁があるのです。実現できないことには理由があり、原因があります。それにどう取り組むかを考えることです。正念場は続きます。

もうしばらく、一緒に挑戦しましょう。以上



とおるのトーク

4月 ファンヒーターをタンクの中の灯油を使い切ってやっと片付けた。今年は3月には暖房が要らないくらいの陽気で電気代も助かった。桜の開花も散り始めも早かったなあ。もっとも、この調子で夏が早くなるのも困るが…だって、介護従事者はマスク推奨で、うちのキッチンが夏は蒸し風呂の様になるらしく、ヘルパーもそんな場所でくそ暑いマスクをつけての待機は気の毒じゃん。

扇風機2台はもう用意した、というか、倉庫にヒーターをしまうのに扇風機のスペースが必要だっただけ。狭い部屋に住んでいる分それなりに工夫する癖がついちゃった。

平日の朝は「めざましテレビ」で起きている。きょうのわんこに紙兎口ペ、いまだき等馴染みのコーナーになっているが、この番組も今年30周年だそうだ。4月にテーマ曲が変わって、朝の目覚めに聞くには重たい曲調にA doの歌声だもんで、いまいち曲に馴染めないでいるけど。総合司会が高島彩とかサブキャスターに中野美奈子のいた時期から見ている、てへっ。ちなみに土曜の同じ時間帯は「はやく起きた朝は」で、熟女三人のおしゃべりに笑いながら聞きつつ起きている。

でもって、夜は「報道ステーション」、久米宏のニュースステーションの後に始まった番組でスタート時の古舘伊知郎から起きている。ニュースもNEWS 23で筑紫哲也とニュースステーションで久米宏が活躍していたころに比べたら、キャスターのコメント一つとっても大人しくなったように思う。「もっとピシッと言えなあ」などと突っ込みたくなる。大体、放送法をとときの政権に都合よく解釈を変えるなんてまかりならぬこと、安倍政権でそれをやった。高市早苗が停波まで持ち出す始末で腹立たしかったのを覚えている。マスコミが政権に対して忖度するようになったらおしまいだよ。

5月 ちと早い衣替えをした。冬の間着ていた某ユニクロのヒートテック極暖もしばらくさよならをする。これってとても暖かいんです。この気温なら半袖アウターデビューも近い。でもって、令和5年5月5日5並びの子供の日、今年は行動制限のないGWがはじまった。そんな中、日課にしている散歩でたまに駅に出かけた。やはり人も車も多かった。ノーマスクで歩く方もちらほらいまして、中には目を引くお綺麗な方もいて、おかげで目の保養になったよ～。あのコロナ騒動は何だったんだろね。毎年のこと祝日だと病院が休みになるけれど、今年は2日の火曜も6日の土曜も休みじゃなくてリハビリは通えた。そろそろ、夏の暑さに備えて暑熱順化で適度な運動が必要だし、何にも増して筋肉ってつけるのは年単位だが、減るのは週単位と言っても過言ではない。約10年週に2回継続して通い、せっかくつけた筋肉を減らしたくはない。その意味ではリハビリに通えてよかった。

去年6月のコラムで不眠を嘆いたが、1年が経ち、あの後飲み始めたサプリが多少効いているような気がする。プラシボ効果かな？夜中に要らんこと考える時間が減るならプラシボ効果だろうが何だろうが嬉しい。今日1日が充実していたことに感謝しながら、今夜もナイトミン飲む。

今回もウクライナの平和を祈ってコラムを終わる。

文：橋本徹

障害を持つ人の生活を支援する

ヘルパー
募集中

お気軽に
お電話ください

054-287-1230

【編集後記】葵舟の取材日は、ちょうど浜松まつりとも重なり、翌日には家康役の松本潤さんが浜松市を訪れ、市内は多くの人で賑わいました。そんなニュースを耳にしながら原稿をまとめたため、家康公への思いが募り、記事が膨らみ、乗船時の様子については次号に持ち越しとなりましたが、葵舟運航当初から乗ってみたい！と密かに思っていたので、まさかこのような形で実現するとは思ってもみませんでした。

ところで、今回記事をまとめるにあたり、徳川家について調べていると、なんとも興味深い記事を発見。それは、家康公の子孫である第9代将軍の徳川家重(1745-1760)が脳性まひで言語障害があったという説。同じく脳性まひである私は、葵舟に乗船しながら、私たち障がい当事者スタッフも負けてられない！と奮起したのでした。次号もお楽しみに！

文：鈴木香奈